

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯	評価基準(考え方)	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離</p> <p>↓</p> <p>位置・規模を評価</p> <p>(目安 1)1,000m程度 2)最大寸法20倍)</p> <p>例)高さ50mの場合 距離1,000m程度</p>	①位置	○	遠景からは地形により計画建物を見通しにくく、一部で目視できるが景観を乱さない
		②規模	○	周辺の建物から目立って突出しない規模としている
		③刈り込み	○	遠景の眺望に対して山の高さより突出しない形状、高さとしている。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>主要部位を評価</p> <p>(目安 100~500m程度)</p>	①基調色	○	基調色(N6)とし周辺の景観特性を乱さないものとする
		②おおまかな形状	○	長方形を主としたシンプルな外観とし過剰に目立つことなく、周辺の景観阻害を生じない
		③主要な付属物 (屋上設備 屋上階段 ベランダ等)	○	屋上看板は建物本体とのバランスを考慮したデザインとしている
		④特殊な材料 (金属やミラなど)		特になし
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気わかる距離</p> <p>↓</p> <p>ディテールを評価</p> <p>(目安 50m程度)</p>	①壁面意匠 (ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備)	○	外壁開口部には形状、寸法の種類を抑えて端正な外観を形成する。
		②看板類	○	景観に充分配慮した看板を設けている
		③アクセントカラー	○	特になし
		④低層部の雰囲気	○	グレーを基調とした配色とし、周辺に植栽を配置する
		⑤敷地利用 (緑化など)	○	通りからの見通しを確保し、敷地外周を中心に緑化を計画している。
地点	<p>●周辺の公共空間(前面道路の歩道など)との関係がわかる距離</p> <p>↓</p> <p>道路際の造作を評価</p> <p>(目安 10m前後)</p>	①低層部のディテール・意匠・材料・構造	○	過度な装飾を行わないことで周辺環境との調和に配慮している。
		②敷地のデザイン (敷地の舗装 緑化状況 駐車場の見えなど)	○	敷地外周は植栽を配置しており、一部の駐車区画も芝にすることにより緑豊かな駐車場としている。